



県南研修会の一コマ

目次

巻頭 サロン「だいじ家」の開設について
 春夏秋冬「星の家」 NO.13
 事務局報告
 県南地区研修会報告
 第12回星の家まつり開催報告



あけましておめでとうございます！ 今号は、本年1月16日に開所式を迎える社会的養護の当事者自助グループとしてのサロン「だいじ家」について、事務局長の曾根俊彦が説明します。

サロン「だいじ家」の開設について

事務局長 曾根 俊彦

はじめに

今年度の新規事業として社会的養護の当事者自助グループ「サロン」の立ち上げを計画してきたが、新年を迎えた1月16日(土)に栃木県青少年センターで開所式を開くところまで漕ぎ着けた。

昨年8月に支える会のネットワークを通じて当事者に呼びかけたところ県内のそれぞれの施設から5名の当事者が集まってくれた。サロンの名前を考えたり、東京の当事者自助グループ「日向ぼっこ」を訪問したりしながらサロン立ち上げの準備をしてきた。仕事を持ちながら、全くの無報酬で活動に参加してくれている彼らに先ずは感謝したい。

サロンの必要性について

久し振りに「星の家」に戻り、子ども達の質がだいぶ変わったように感じる。これまで、自立援助ホームというのは「仕事をして自立する事」を前提に受け入れてきた。今、「星の家」に来る子を見ていると全くそれを感じられない。「ここは児童養護施設なの」と間違えるほど、「星の家」にいる子ども達は児童養護施設の雰囲気や人間関係を持ち込んでくる。自立と言うにはあまりにも幼すぎる。

また、今年度から制度が変わり、自立援助ホームの入所に児童相談所が関わるようになった。今まで特別な事情がない限り15歳から18歳までの子ども達に児童相談所が関わる事はほとんどなかった。これらの子ども達の多くは、大人の援助を得られることなく遠回りしてどうにも成らなくなってから星

の家に辿り着いていたのであるが、児童相談所が関わるようになってから「児童養護施設から就職、就職に失敗後すぐに児童相談所経由で星の家に入居」というケースが増えてきている。このことが未成長な子ども達の「星の家」の入居に拍車を掛けている。

誤解の無いように言っておくが、私は児童養護施設や児童相談所を批判しようという気持ちは全くない。モラトリアム期間の延長は一般社会でも子ども達の自立の年齢を遅らせているし、被虐待児や発達障害児の増加は、児童養護施設の処遇を困難なものにしている。また15歳から18歳の子ども達に、児童相談所が関わらないより、関わって貰った方がよいのは当たり前である。

ただ、児童養護施設からすぐ自立援助ホームという流れでなく、児童相談所や出身児童養護施設と共に、様々な社会資源を使いながらアフターケアを行い、社会の中で、社会の持つ養育力を利用しながら子ども達自身が主体的に自立について考えていけるような、中間的な相談援助を担う場が有れば良い思っていた。それを具体化したものが「サロン」だと思っている。

サロンの役割について

サロンには大きく三つの役割があるのではないかなと思う。

運営委員として集まってくれた当事者の中にも職場や友達に自分が施設出身者である事を言えなかったり、家庭や家族の話になるとどうしても入ってい

けないという。社会的養護の当事者の多くは、マイノリティとしての生きづらさを感じている。サロンに集まり当事者にしか解らない辛さや思いを語り合い、共感できるようなピアカウンセリング出来るような場になると良い。その為にも、食事作りやレクレーションなどをしながら、気軽に集まれる居場所を先ずは作っていききたい。



里親や児童養護施設を中卒や高校中退で社会に出た子ども達は、信頼し相談できる大人がいないまま社会で生活している事が多い。ここ数年の経済不況は彼らの生活をもろに直撃している。「仕事を辞めてしまった」「お金がない」「住むところがない」と切羽詰まる前に少しでも早くSOSが発信できるような窓口として相談室を設けたり、電話相談を受け付けたりして、相談援助を行いたい。「市役所の手続きが解らない」「友達から借金を申し込まれた」「無断欠勤をしてしまった」等、一寸したスキルがあれば何とかあったのと言う事が彼らには沢山ある。受け皿としての自立援助ホームに入居する前の支援をサロンが受け持てたらと考えている。

そして三つ目は、自立援助ホームで培ったノウハウや、サロンに集まった当事者の声を集約し、社会に発信していく事で社会的養護の質を高めていく事とである。児童養護施設は昔から「代弁者機能の働かないところ」と言われてきた。当事者が声を上げる事は権利擁護の観点からもとても大切な事と考え

ている。また、里親や施設で生活している後輩に対し「自立するために何が必要か」を先輩として伝えていく事で、施設等で生活する自立を控えた子ども達にエールを送る事である。自立のための研修会や交流会、職場体験などを企画しながら入居者と退去者の交流を深めたり、リービングケア(注)に関するマニュアル作り等も考えていきたい。その為にも里親や児童養護施設、児童相談所と連携し協力していく事も重要であると考えている。

これからの事について

当初、この事業は、国のモデル事業としての「地域生活・自立支援事業」の指定を受け実施する予定であった。実施に向けては県の担当課も相当頑張ってくれたのではあるが、今までの実績がない事や県の緊縮財政と言う事で、平成22年度は補助金の指定を受ける事が出来なかった。会員の皆様の会費や寄付金、コンサートや星の家まつりの収益など貴重な財源を使わせていただくことを心苦しく感じている所ではありますが、少しでも実績をあげ、23年度はモデル事業の指定が受けられるよう当事者の運営委員と共に頑張っていきたいと思う。

会員の皆様の温かい気持ちに感謝しながら。

(脚注)

注1 リービングケア：退所準備。入所している子どもに、施設退所後の生活に円滑に移行し、自立した社会生活を送るため、社会生活に必要な生活技術を身につけるトレーニングや実際に自立した生活体験を積ませること。

春夏秋冬「星の家」 NO.13

2010年！「星の家」での13度目のお正月を迎えることができました。「星の家」を支えてくださっている会員、寄付者、ボランティアの皆様、そして青少年の自立を支える会の役員の皆様に感謝申し上げます。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

昨年4月に「星の家」は引越し、清住での生活が始まり、定員も6名から8名になりました。私たち家族も住み込みを続けながら暮らしております。長男、次男も高校生になり、家を出る日もそう遠くないことを感じます。幼児・赤ちゃんだった三人の息子たちは南大通りの家で大きくなりました。三人とも南大通りが大好きでした。

OBやOG、たくさんのアルバムを見ると12年間の思い出があふれます。南大通りの家との別れはとても寂しく、最後の日に夫と二人茶の間と廊下に座り庭を見ながらしばらく過ごしました。みんなと

沢山笑って、泣いて、言合いましたこと。時には取っ組み合いをしたこと。夜中まで話したこと。大人も子どもも暮らしの中で、手探りで目には見えない糸をたくりよせていく。お互いにごちゃごちゃしながら、疲れ果てながら向き合っていく・・・。南大通りでの12年間は私たちにとって沢山の出会いがあった月日でした。

その出会いでとても大きかったのは、大家さんの山田さんご家族との出会いでした。いつも励まし温かく見守っていただき、子どもたちにも愛情を持ってかわいがっていただきました。山田さんご家族との思い出も沢山あります。そしてご近所の方々にも本当に良くしていただきました。私たち「星の家」にとって大きな財産となりました。本当にありがとうございました。(今も山田さんのご好意で一軒使わせていただいております。ありがとうございます。)

南大通りでの12年を初心の気持ちを忘れず、清

住での暮らしを大切にしていきたいと思っております。清住の家は明るく風通しの良い気持ちの良い家です。この家で出会う人と時を重ねて行きたいと思えます。

昨年はもう一つの家との別れがありました。数年もの間、無償でバザー物品、備品、アパートに出る子どもたちのために、いただいた家電製品や布団などを置くために使わせていただきました。(福富さんありがとうございました。)

ところで、お正月に来たOGの子がサロン「だいじ家」に入ると“ここは私の部屋でもあるんですよ！” 私が“そうだよ。今度君たちは、後輩の相談に乗ってあげたり、アドバイスをしてあげたりするんだよ。”と言うと“私、ある人から人の役立つこ



とをやったほうが良い。星さんの助けになるようなことをしたら良いって言われたの。”と、少し照れくさそうにニコニコしながら言っていました。

また、アパートで生活している子たちが訪れた時のこと、“周りにはいる同世代の人達は、卒業旅行が外国とか、大学に行きながらアルバイトをしているけれど生活費ではなくて小遣いになる。俺たちは12,3万円の給料で(もちろんボーナスはない)光熱費を気にしながらの生活。洋服1枚買うのをどうしようかと迷いに迷うのに・・・”と。私にはOG,OBの話聞いて、たくましく生きている力を感じましたし、輝いて見えました。

子どもたちからすると前向きにやっていかないと、やってられないという気持ちらしいのですが、時々どうしようもなくなって、ホーム長の携帯電話に泣きながらかけてくる。こんな時、子どもの話をいつまでも聞いているホーム長がいるのです。(美帆)

事務局報告

県

南地区研修会報告

11月21日土曜日の午後、NPO 法人風の詩及び栃木県里親連合会県南地区里親会と共催で、県南の方々に参加していただけるようにと、栃木市の国府地区公民館において研修会を開催いたしました。今回は20名強の方が参加、「それぞれの地域から見た自立支援の取り組み」をメインテーマに、サブテーマの「現場から見えてくるもの」について研修会が進められました。

最初に「星の家」ホーム長の星俊彦が講演、後のシンポジウムでは、シンポジストに永島徹氏(NPO 法人風の詩 副理事長)金澤伸子氏(栃木県里親連合会県南地区里親会専門里親)星俊彦の3氏を、本会理事長の福田雅章氏をコーディネーターに有意義な討論が行われました。

星

の家まつり報告とお礼

去る10月25日日曜日、宇都宮市明保野体育館および隣接駐車場を会場に、第12回目の星の家まつりを開催しました。この日天気予報では午前中雨の予想で気をもむ天候でしたが、何とか持ちこたえた結果、隣接の宇都宮市男女参画推進センターのフェスティバルの相乗効果もあってか、かつてない人出

でにぎわい無事に終了しました。

その結果、当日売上は過去最高益を記録、売残りのバザー物品の売却処分を加えた収益は1,726千円(詳細は後掲の決算書参照)に達しました。ご支援ご協力をいただきました皆様方には厚くお礼申し上げます。



オークションの一コマ

今回は“生協のチラシを見て”と言って大勢の方がバザー物品を提供してくれました。これはとちぎコープ様が前回に続き無償で生協宅配の商品カタログ綴りにまつりチラシ(1万部以上)を入れていただいたお蔭、先細りのバザー物品集めに朗報でした。

また、会場設営機材等では毎年無償でご支援いただいているテント等のイベントワーク(有様、プロパンガスの株ミヤプロ様、そして臨時倉庫の浅香様など！準備の負担と費用の大幅軽減につながりました。

また、ボランティアでは、国際医療福祉大学の学生ボラ(34名)、ワールド・ソウル・コーラス宇都宮のメンバー(15名)が参加、お陰様で200名を超えることができ大助かり、うれしい限りです。

模擬店では、村おこし応援団による「石釜ピザ」と「肉うどん」のわだちの会が参加、共に大好評！

最後に至らぬ点につきましてはお詫びいたすとともに、これからもご支援のほどお願い申し上げます。



付・会費納入者

敬称・順位不同
但し、9月から12月まで

(個人情報保護の観点から、ウェブ版では個人名は割愛させていただきます)

お知らせコーナー

第12回星の家まつり収支決算書 単位 円

項目	収入	支出	純利益 (収入-支出)	備考
合計	2,017,088	291,388	1,725,700	過去最高益
売残り品・金券等売却益除く			1,546,384	過去最高益
バザー計	1,454,105	1,627	1,452,478	
オークション	317,260		317,260	過去最高益
野菜	39,600		39,600	
食器	157,376		157,376	過去最高益
特売品	36,670		36,670	
日用品	326,615		326,615	
おもちゃ・くじ引き	33,848	1,627	32,221	
雑貨・手作り品	107,120		107,120	過去最高益
食品	116,900		116,900	過去最高益
衣類・靴かばん	271,940		271,940	過去最高益
本・CD	43,776		43,776	
帽子屋さん	3,000		3,000	倉谷製帽店寄付
横断店計	331,900	124,125	207,775	
焼きそば	100,270	54,096	46,174	焼400食・ボラ食券186枚
飲み物	19,600	37,440	-17,840	182個・ボラ食券186枚
クレープ・パン	93,780	32,589	61,191	クレープ226食 フルスパン
ライスカレー	22,150		22,150	国際医療福祉大
鉢花売上(希望の家)	4,400		4,400	希望の家
鉢花売上(一人暮らし)	5,000	収益寄付	5,000	一人暮らしの会
ピザ	60,000		60,000	村おこし応援団
クッキー	4,000		4,000	投票券子5人20×@200
肉うどん	22,700		22,700	わだちの会 約190食
募金・寄付等	231,083		231,083	
寄付金・募金	51,767		51,767	
売残り品等売却	179,316		179,316	倉庫移転に伴う処分
本部経費		165,636	-165,636	
会場借費用		32,630	-32,630	
輸送費		35,000	-35,000	日本運送ワイF381車1台
共通消耗雑費		98,006	-98,006	

第13回青少年の自立を支える会
コンサート開催のお知らせ！

第一部：AKIRA (Vo, g) 渡辺真理 (P)
第二部：倉沢大樹 (Epf) 浅香薫子 (Vo)
島田絵里 (fl)

* 出演者のプロフィールは、同封チラシをご覧ください。

開催日 平成22年 3月13日(土曜日)
開演 17時(開場16時20分)
場所 宇都宮市文化会館 大ホール

* 当日開場整理などのコンサートボランティアを募集中です！

【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972
 * 通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。
 会員種別と金額は、正会員：5,000円、賛助A：5,000円/一口、賛助B：1,000円/一口、賛助団体20,000円/一口です。
 「会費等の金融機関引落し」のご利用をお勧めしております！

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会
 発行日/ 2010年 1月15日
 発行責任者/ 福田雅章
 編集責任者/ 曾根俊彦

所在地/ 320-0037 栃木県宇都宮市清住 1-3-48
 電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024
 Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp
 HP/ http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/